巻頭特集

夜空を彩る夏の風物詩

桑名水郷花火大会にいこう！

今年も7月30日に揖斐川から大きな花火が上がる。桑名の夏の2大イベントの一つ「桑名水郷花火大会」だ。毎年多くの人々が会場に訪れ、盛大に打ち上げられる花火を楽しんでいる。今回は70年以上の歴史を持ち、少しずつ姿を変えながら桑名の人々を楽しませている桑名水郷花火大会を紹介する。

水面を華やかに彩る水中スターマイン

変わるものと変わらないもの 時を超えて残り続ける花火大会

ドーン、と大きな音が響くたびに、赤・青・白と色とりどりの花火が夜空に咲いていく。石取祭と並んで、桑名市の夏の風物詩として親しまれる「桑名水郷花火大会」は毎年7月の最終土曜日に、揖斐川で行われる花火大会だ。およそ15万人が見物に訪れ、川には多くの遊覧船が浮かぶ。揖斐川の中州から9千発の花火が打ち上げられ、その中には東海地区最大級の直径約60ｃｍの二尺玉も14発含まれている。

桑名水郷花火大会が始まったのは１９３４年。揖斐川、長良川に架かる伊勢大橋の完成を祝い行われた。当時の最高技術を駆使し、日本最長とうたわれた伊勢大橋の注目度は高く、竣工式には9万人の見物客が訪れたという。完成した橋の姿は写真や絵ハガキとして残っており、桑名の新名所の誕生を市民が大変喜んでいたことが伝わってくる。

戦時中や伊勢湾台風があった年を除き、少しずつ姿を変えながらも、市民の楽しみとして毎年行われてきた。戦争と伊勢湾台風の犠牲者を悼んで行われていた灯篭流しは、現在、花火大会の冒頭に行われる追悼花火に変わっている。花火も銘品花火からスターマインがメインになり、市民がメッセージとともに花火を打ち上げる「記念花火」が行われるようになった。打ち上げる場所も以前とは異なっている。今年の花火大会では、東日本大震災への義援金も募る予定だ。

しかし、どれだけ花火大会の様相が変わっても、花火を見に訪れる人々の姿は、変わらない。初めて揖斐川で花火大会が行われた日と同じように、今年も花火に照らされた多くの笑顔を見ることができるだろう。

水郷花火大会の名物 水中スターマイン

桑名水郷花火大会の見所の一つ「水中スターマイン」。スターマインとは速射連発花火のことを指し、一つのテーマに沿って、いくつもの花火を組み合わせ、連続で打ち上げるプログラムのこと。短い時間に次々と景気よく打ち上げられる光景はダイナミックで華々しく、各地で行われる花火大会においても、花形といえる人気を誇っている。

桑名水郷花火大会の水中スターマインは、船から川に投げ込んで設置する。水面に浮かんだ花火は、陸地で使うものと大きな違いはなく、導火線だけが通常のものよりも長くなっている。点火してから打ち上がるまでの時間は20秒。その20秒は、花火師たちが舟で逃げるのにかかる時間の限界だそうだ。

夜空で弾ける水中スターマインは、水面にもう一つの絵を描く。低い位置で炸裂した花火は、ちょうど水面に映る花火の半円と重なり、まるで水中で花火が炸裂しているように見える。その幻想的な光景から、水中スターマインと呼ばれるようになったそうだ。

花火の前にはたくさんの遊覧船が浮かんでいる

桑名水郷花火大会のクライマックス

華々しく炸裂する花火

伊勢大橋完成当時（1934年）の写真
（個人所蔵）

二尺玉の筒

花火大会の準備の様子

二尺玉の開花時の直径は約480メートル。
高さは約500メートルまで打ち上がる

昭和後期の桑名水郷花火大会を描いた絵ハガキ

夜空から届けるメッセージ 記念花火

桑名水郷花火大会では大切な人へのメッセージとともに、「記念花火」が打ち上げられている。結婚した友達や亡くなった家族など、自分の思いを込めて打ち上げる花火は、美しい花火を背景に、記憶の中で鮮やかに生き続けていく。昨年、記念花火を上げた人々に、話を聞いた。

桑名愛昇殿

桑名市で多くの人々の葬儀を行う桑名愛昇殿。故人と残された家族のために、毎年、追悼花火で記念花火に参加している。

葬儀事業を取り扱う桑名愛昇殿は、5年ほど前から、亡くなったすべての人に向けて、追悼花火を上げている。そのことをスタッフの加藤さんはこう話す。

「亡くなられたすべての方を悼むと同時に、残されたご家族が花火を見ながら、故人を思い出してもらえるように思って参加しています」

時期もお盆が近く、亡くなった人々がいつもより近くまで来ているかもしれない。また、遠くに移っていた家族が返ってくる時期でもある。「なるべくたくさんの方に、大切な人のことを思い出して欲しい」と話す加藤さん。桑名に多くの人が集まる桑名水郷花火大会だから、毎年、追悼花火を続けているそうだ。

桑名愛昇殿のスタッフたち

佐野榮則（しげのり）さん

地元の特産「はまぐり」を使った料理を楽しめる「日の出」を経営。花火は、長年に渡り、日の出を切り盛りしてきた亡き父を悼んで上げられた。

佐野さんは花火の時に店を空けることができず、手の空いた時には外へ出て、花火を楽しんでいるという。

亡くなった父のために、何かをしてあげたいという思いから記念花火に参加。「生まれ変わっても家族でいられますように」「働きづめだったお父さん、ゆっくり休んでください」という願いを花火に込め、大好きな父を追悼した。

佐野榮則さん

2011年度桑名水郷花火大会

○日時：2011年7月30日（土）
19:30～20:45
○場所：揖斐川河畔（鍋屋堤）
当日の開催有無の問い合わせは、
TEL 0180-995-987まで（自動応答）
○悪天の場合
7月31日(日)、8月1日（月）へ順次順延

花火を見た後は川をきれいに
桑名水郷花火大会会場清掃ボランティア

清掃活動を行うKUHANA42のメンバー

桑名の飲食店主が集うグループ「KUHANA42」は、さまざまな機会で清掃活動を行っている。桑名水郷花火大会は、毎年盛大に行われ、人々を楽しませる一方、終了後のゴミの量は膨大である。

今年も「KUHAMA42」では、終了後に会場の清掃活動のボランティアを募集している。学ぶことも多い清掃活動に、今年は親子で参加してみては。